キャリアアドバイザーに聞いた!

転職サクセスへの道

ROAD TO "TENSYOKU SUCCESS" vol.24

ADVISER

キャリアコンサルタント
村本麗子氏

ビジネスマンスクール東京・札幌の上席講師として年200回以上の授業に登壇。公共団体や企業への研修の提供や、企業、経営者、起業家へのコンサルティングや講演など、活動は多岐にわたる。脳科学理論をベースとしたコーチングでは、北海道における第一人者。株式会社ヒト・ラボ 代表取締役。

面接に行く時の服装。どう考えて決めればOK?

面接時の服装についてハウツー本やネットなどでもさまざまな情報が書かれています。スーツは必須? 女性のパンツルックはNG? そういった個別の事例で考えるより、基本となる考え方をもう一度見直してみましょう。

面接は自己プレゼンの場。服装選びが持つ意味は?

面接も履歴書と同じように、自己をアピールするプレゼンのひとつだと考えましょう。その場に臨むにあたり、どんな〝装い〟がふさわしいかを考えると、分かりやすいかもしれません。

極端なことを言えば、自分に120%の自信があり、それを完璧に伝えられるのなら、どんな服装でも勝負はできます。しかし、現実にはその場に合わない服装で面接に臨み、勝負をさせてもらうステージまでたどり着けずシャットアウトされてしまうことも少なくありません。

相手を研究して「戦略」を考えることも大切。

こんな話があります。

「銀行志望のある就活生が、A銀行の面接には赤いネクタイ、B銀行の面接には青いネクタイで出かけ、両方に合格した」

この話の背景には、A銀行では赤を、B銀行では青をコーポレートカラーとして採用していた、という事情があります。そして、この学生が採用となったのは「赤いネクタイをしてきたから、採用しよう」と、採用担当者が単純に考えたからではありません。「この学生はさまざまな視点から企業を研究し、戦略として面接時に取り入れようと考える能力がある。だから採用しよう」という判断から、採用となったのです。

業界、企業、キャリアに合わせ自分自身で考える服装選びを。

どの業界への就職を考えているかによっても、適切な服装は変わります。しっかりと業界研究・企業研究をし「どんな服装で行くと、どんな印象をもたれるか」と想像してみるとよいでしょう。

そうはいってもなかなか服装を決められない… という場合は、「面接時の服装」に限定せず、自分がその業界・企業で働いている姿をイメージするとよいかもしれません。新卒では定番のリクルートスーツも、長いキャリアを積んだ人が着ると、頼りなく見えてしまう場合も考えられます。

ネットや本の情報を鵜呑みにするのではなく、自分自身で研究し、戦略を立てる姿勢があれば、その熱意はきっと相手にも伝わるでしょう。